

# 岐阜分室便り

## 「第13回自然共生河川研究会報告」



岐阜分室 室長 大竹 良昌

自然共生河川研究会は、自然と共生した川づくりの一層の展開に資することを目的として、平成7年度から（財）リバーフロント整備センターと（財）ダム水源地環境整備センターとが交互に開催し、本年が第13回となり岐阜分室が担当したので、その内容等について報告します。

### ◎テーマについて

全国的な異常高温や台風の上陸数など過去の記録更新が相次いだことや、台風に伴う前線豪雨によって中部地方でも多くの災害が発生した。これらの現象は地球温暖化が原因とも言われており、その原因の把握、発生する現象、対策をテーマとしてとらえ「ヒートアイランド現象と河川の効果」としました。

### ◎研究会について

研究会は、平成17年1月24日（月）名古屋駅前の名古屋通信開館において学識者をはじめ国、県、市町、法人、一般と約240名の出席により盛大に開催できました。冒頭、竹村理事長の主催者挨拶のあと、来賓の村田進中部地方整備局長からは中部地方がさらに我が国をリードし、さらに発展していく基盤、地域づくりをしていかなければならない。そのためハード、ソフトを総合的に進め、よりよい中部の地域作りに貢献していきたいと挨拶をいただいた。演題と講演者を紹介し、講演概要を報告します。

#### 1) 特別講演 「地球温暖化」

東北大学大学院教授 齋藤 武雄 氏  
主な内容としては、

- ・ 将来、地球の温暖化が進むと恐らく台風は100個くらい来る。強さも今年の何倍か強い台風が来る可能性もある。
- ・ 環境の問題というのは、全て有限であり、地球の気候も無限ではなく有限である。
- ・ 南極大陸には地球上の水の90%が存在、全部溶けると水位が73m、1割溶けると7m上昇する。



#### 2) 講演

##### I. 「清溪川河川再生による気温低下」

～高速道路撤去による清溪川の拡幅～

ソウル市開発局都市環境部長 金 雲洙 氏

主な内容としては、

- ・ 持続可能な都市再開発は、住んでいる人の参加が不可欠。
- ・ 復元の前後の気温の変化をENVIERmetモデルによりシミュレーションをしたところ、温度の低減効果は0.3～0.6度であった。



##### II. 「ヒートアイランド現象と河川の効果」

土木研究所水理水文チーム主任研究員 木内 豪 氏  
主な内容としては、

- ・ シミュレーションによると、地球温暖化で100年後には年間の3分の1は夏になってしまうこともあり得る。
- ・ 原因としては、水辺とか緑地が都市から失われていることが非常に大きく、生活から出る熱、自動車からの熱などによって都市が非常に熱くなる。
- ・ 東京23区の水面を5～10%増やすとお昼時で0.6度位気温が下がる。
- ・ 水面再生と屋上緑化の気温低減効果は、水面の方が緑化より倍効果がある。
- ・ 地下水をまくと、気温は1度低下し湿度は5.5%上昇したが、そんなに蒸し暑くなったという感じはしなかった。
- ・ 水循環の観点からは、蒸発散を利用する気温低減は非常に効果的。

##### III. 「大江戸打ち水大作戦」

大江戸打ち水大作戦作戦本部長 尾田 栄章氏  
主な内容としては、

- ・ 北京オリンピックでは川を再生、東京オリンピックでは川に蓋をした。まさに40年という年月の重み。
- ・ この蓋をした渋谷川の上に打ち水をした。
- ・ 決められた時間にみんなで一斉に打ち水をするその結果どのようなことが起こるのか観測する。これが打ち水大作戦の全体像。
- ・ 最終的な目的は、打ち水を世界中に広めること。最後に、打ち水に限らず、水の問題を世界の人々と一緒になって、非常に悲惨な状態にある地球上の水問題の解決に向けて努力していきたいと結ばれました。

### ◎おわりに

ご多忙にもかかわらず、ご講演を引き受けていただきました先生各位、ご出席いただきました中部地方整備局長様はじめ多くの方々には厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、開催にあたりまして（財）ダム水源地環境整備センター、（財）リバーフロント整備センターの職員の方々のご協力に感謝申し上げます報告とさせていただきます。